

「数理・データサイエンス・AI・教育プログラム」履修モデル 内容一覧

※履修モデルの「内容番号」はこの表に記載の内容と対応しています。

番号	内容	
[1]	数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化(第4 次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであること、また、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	
[2]	数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	
[3]	様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	
[4]	数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮することが重要であること。	
[5]	実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	
オプション	[オ1]	統計および数理基礎
	[オ2]	アルゴリズム基礎
	[オ3]	データ構造とプログラミング基礎
	[オ4]	時系列データ解析
	[オ5]	テキスト解析
	[オ6]	画像解析
	[オ7]	データハンドリング
	[オ8]	データ活用実践(教師あり学習)
	[オ9]	その他

※文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度 審査項目を参考に作成